

令和3年6月22日

取手市議会議長

齋藤久代 殿

福祉厚生常任委員会

委員長 石井めぐみ

委員会中間報告書

本委員会の調査事件について、会議規則第45条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 調査事件名 令和2年度「議会を知り・未来を語る～取手二中3年生&取手市議会～」における中学生市議から提言された事項に関する当委員会所管事務
- 2 調査の経過 令和3年3月8日，令和3年3月17日，令和3年6月17日
- 3 意見 別紙のとおり

【福祉厚生常任委員会】令和2年度取手二中3年生との合同企画（課題・提案・考えられる効果等）

	中学生からの課題	中学生からの提案	提案が実施できた場合の考えられる変化や効果	現状・課題等
1	<p>高齢者が増加することでデジタルディバイド（情報格差）が発生する。</p> <p>高齢者が増加することで認知症患者が増加する。</p>	<p>デジタル支援プロジェクトを立ち上げ、高齢者がスマホの使い方を教わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル機器を使えるようになる</li> <li>・認知症予防</li> <li>・人とのコミュニケーションする場ができる</li> <li>・高齢者の可能性の拡大</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル機器を持っていない人への対応</li> <li>・資金調達の方法</li> <li>・コロナウイルス感染症への配慮</li> </ul>	<p>現在、取手市内では、高齢者がデジタルに関する知識を得る場や、デジタルツールにチャレンジする場を、市が、企業が、地域が、それぞれ設けています。詳細な取組は次の通りです。</p> <p><b>①IT講習会</b></p> <p>市ではパソコンボランティア団体の協力のもと、「IT講習会」を市内の6カ所の公民館で開催しています。内容はパソコン使用の基礎から、WordやExcelといったソフトの使い方、デジタルカメラを使った写真入門とコースによって分かれます。令和3年度上半期は6つのコースで計75名定員の授業を実施しました。また、取手市は高齢者の社会参加を応援しており、「とりで生涯現役ネット」では、タブレットの貸与やZoomのようなアプリの使い方教室を行い、今までデジタルに馴染みがなかった高齢者への手助けを行っています。</p> <p><b>②パソコン教室・スマホ教室</b></p> <p>市内ではパソコンの使い方を教えるパソコン教室が営業しており、以前は、ExcelやWordなどを教える内容が主でした。現在は、いわゆるキャリアショップにおいて、スマートフォンの使い方</p>

を教える教室も開かれており、参加予約枠が満了するなど人気を博しています。

高須地区では、地域の役員が住民に声をかけ、携帯キャリア会社による出張スマホ教室を地域の集会所で行いました。

### ③市民・ボランティア団体のオンライン利用促進

新型コロナウイルス感染症で直接的な接触を控えざるをえない問題を解消するために、市民ボランティア団体「憩い・オンライン」が令和2年市内に発足しました。今後、高齢者を含む市民・ボランティア団体のオンライン利用推進について活動する予定です。

(今後の展望)

2020年閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」に示された「誰一人取り残さない、人にやさしいデジタル化」という構想を実現するために策定された「自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画」に基づき、高齢者のデジタルデバイド解消に向けた様々な取組を行う予定とのことですので、市議会としても今後の取組を注視してまいりたいと考えます。